

宮城県支部だより

佐藤壽伸

1 概 況

宮城県透析医会は1978年宮城県内における、①社会保険医療の適正化に関する活動、②関係官庁、基金審査会および医師会との連絡協調、③透析医療の研究、教育の充実、④透析施設間の互助、にかかわる組織として設立されました。平成29年末時点で宮城県内には65の透析施設があり、それらの施設で主として透析医療に従事している約60名の医師が参加しています。設立当初より医会を牽引されてきました関野宏先生の逝去にともない、2013年以降は独立法人地域医療機能推進機構（JCHO）仙台病院の田熊淑男先生が会長を務めています。事務局はJCHO仙台病院腎臓疾患臨床研究センター内にあり、佐藤壽伸が庶務を担当しています。その他の人事に明確な規定はありませんが、公益財団法人宮城県腎臓協会や宮城県医師会との連携の下、所属する多くの方々に透析医療の研究と教育、社会保険医療の適正化や基金審査、医師会との連絡調整の分野で役割を担っていただいております。

2 公益財団法人宮城県腎臓協会との関係

最近では透析医も透析医療以外に腎不全の発症予防、進行防止、腎移植にもかかわることが求められるようになってきました。宮城県では公益財団法人宮城県腎臓協会が透析医療、腎不全対策、腎移植医療の三つを総合的に推進する核の役割を担っており、その役員には宮城県や仙台市医師会、宮城県、仙台市などの行政職また銀行や地元財界の多くの方々にご就任いただいております。宮城県透析医会の会長である田熊淑男先生も同協会の副理事長を兼務しており、宮城県透析医会と宮城県腎臓協会は緊密な関係で相互協力のもとともに県内腎不全医療の充実に貢献しています。

3 宮城県腎不全研究会との関係

宮城県では日本透析医会の前々身に相当する全国都道府県透析医会連合会の結成以前の1974年に宮城県腎不全研究会が設立されており、県内透析医療機関に勤務する医療スタッフの教育と情報交換の機会として年一回12月に学術集会である宮城県腎不全研究会が開催されてきました。現在宮城県腎不全研究会は公益財団法人宮城県腎臓協会の主催事業として年一回開催されていますが、宮城県透析医会も協力し、宮城県腎不全研究会の特別講演や教育講演は日本透析医会よりの支援に

より行われています。

4 活動状況

4-1 学術活動

学術活動は上記年一回開催される宮城県腎不全研究会への後援が主なものです。直近の2017年宮城県腎不全研究会は一般演題48題と教育講演3題、ワークショップ3題と充実した内容でした。また2016年は毎年東北6県と新潟県の合わせて7県が順次持ち回りで開催する東北腎不全研究会が仙台で開催されました。その他透析医会会員の若手医師を世話人として宮城臨床透析研究会が組織され、2010年より県内全域の維持透析導入患者を対象としたコホート研究、宮城臨床透析研究会コホート研究がスタートし現在も継続されています。

4-2 災害対策事業

2011年の東日本大震災では宮城県内の透析医療も大きな被害を受けました。特に沿岸部、県中央部の被害は大きく、当時の全透析施設53施設中4施設が壊滅的被害を受け、550名の血液透析患者がその治療施設を失いました。しかしライフラインの復旧は早く、沿岸部を除き幸い3月中旬までには震災前の透析医療供給体制の70～90%が復旧しました。この間、宮城県内の透析医療関係者の多くは「可能な限り患者の生活の場近くでの透析医療確保」を共通の目標に、その使命を果たしたわけですが、日本透析医会の皆様にも大変お世話になりました。

その後も宮城県医師会、宮城県腎臓協会、宮城県透析医会の三者が協力し連絡網の整備、運用マニュアルの作成が進められるなど災害対策事業が続けられています。

4-3 臓器移植普及推進キャンペーン

1998年臓器移植に関する法律が施行されて以降、宮城県では宮城県腎臓協会の腎バンク事業の一環として毎年10月の臓器移植推進月間に併せて臓器移植普及推進キャンペーンを行っています。透析医会も医師を派遣し、腎移植に関する啓蒙を行うなど少なからず貢献しています。

4-4 会員相互の親睦

宮城県透析医会では年一回新年会を兼ねた会員の親睦会が行われています。

5 おわりに

宮城県内での新規透析導入患者数は年間500～600人で、現在約5,000人の患者さんが維持透析施設で治療を受けています。これまで宮城県透析医会はこれら透析患者さんに良質な透析医療を提供する使命を十分に果たしてきましたが、今後も会員相互の協力関係維持に努め、よりよい透析医療の環境形成を目指していきます。